



私達の体には、健康を維持する機能として、体内に進入してきたウイルスや病原菌から生命を守るための免疫機能があります。この免疫機能の働きによって、よほど強いウイルスでない限り免疫細胞が退治しますので、風邪などの病気も自然と治癒していきます。逆に、この免疫の働きが原因となって引き起こされてしまうのが免疫性不妊症です。例えば女性の体から見れば、男性の精子は異物と見なされてしまうので、女性側の免疫反応により、体内に入ってきた精子を排除してしまう場合があります。このような免疫性不妊症の原因の1つとして、「抗精子抗体」があります。

◎もしも、抗精子抗体があったら？

「抗精子抗体」は、女性の体の免疫機能が、体内に入ってきた精子を外敵と判断し攻撃します。精子よりも、体内の免疫細胞のほうが強いので、ほとんどの精子が卵子に辿り着く前に無力化されてしまいます。そのため、女性が抗精子抗体を持っている場合には、自然妊娠することは難しくなってきます。男性の場合でも、極稀に抗精子抗体を持っている場合があります。それらを調べるには、まずフナーテストを行うことが多いです。そしてその結果をみて、抗精子抗体検査を行います。



◎抗精子抗体には、どんな種類があるの？

抗精子抗体は、その抗体の働きによって精子不動化抗体と精子凝集抗体の2種類に分類できます。

●精子不動化抗体

射精された精子は、尾部の働きによって前進することが出来ます。精子不動化抗体は、この尾部の運動を阻害してしまうので、精子は、前進どころか身動きがとれなくなってしまいます。そのため、精子は卵子に辿り着くことができません。この精子不動化抗体は、不妊女性の5～8%にみられます。

●精子凝集抗体

精子凝集抗体は、精子同士をくっつけてしまう抗体です。くっついてしまった精子は、前進運動が阻害され、卵子に辿り着くことが出来なくなってしまいます。

◎抗精子抗体の評価はどのように行うのでしょうか？

精子凝集試験は検体（血清）に精子を加えて精子凝集の有無を判定する方法で非特異的反応（偽陽性となってしまう）が多く、抗体による凝集と非特異的凝集の鑑別が困難であるため、最近では、精子と検体との反応系にさらに補体を加えて補体依存の精子細胞障害をみる精子不動化試験が考案され、臨床に応用されています。精子不動化試験では、精子不動化値（SIV）が2.0以上を陽性と判定します。抗体検出率は、対照女性（不妊でない女性）ではほとんど検出されないのに対して、不妊女性では4～5%、特に機能性不妊女性（原因不明不妊）では、10～15%に検出されます。ちなみに、当院ではフナーテスト異常の方や希望のある方に行っておりますが、その検査結果は、開院当初から平成23年6月までで、陽性率3.5%（5/143）です。ちなみに、この検査は健康保険の適応がないため自費（税込み5,250円）になります。



◎抗精子抗体がある場合、どんなふうに治療するのでしょうか？

不妊症の原因となる抗精子抗体が、女性の体内で生産されてしまっている場合には、自然妊娠は、難しくなります。また、通常の不妊治療や人工授精などの治療効果もほとんど期待できません。そのため、抗精子抗体の影響をほとんど受けない「体外受精（顕微受精）」によって不妊治療を行います。

参考文献：<http://www.ninsin1.com/jyosei/meneki.html>

https://hugehug.jp/statics/kisochishiki/kensa/kensa_hairan/index.html

生殖医療のコツと落とし穴（株）中山書店 第1版2004/5/31発行